

ESG説明会

当社グループのESG推進	橋本 修	代表取締役社長執行役員 CEO
新事業・研究開発による 事業ポートフォリオ変革	表 利彦	常務執行役員 CTO

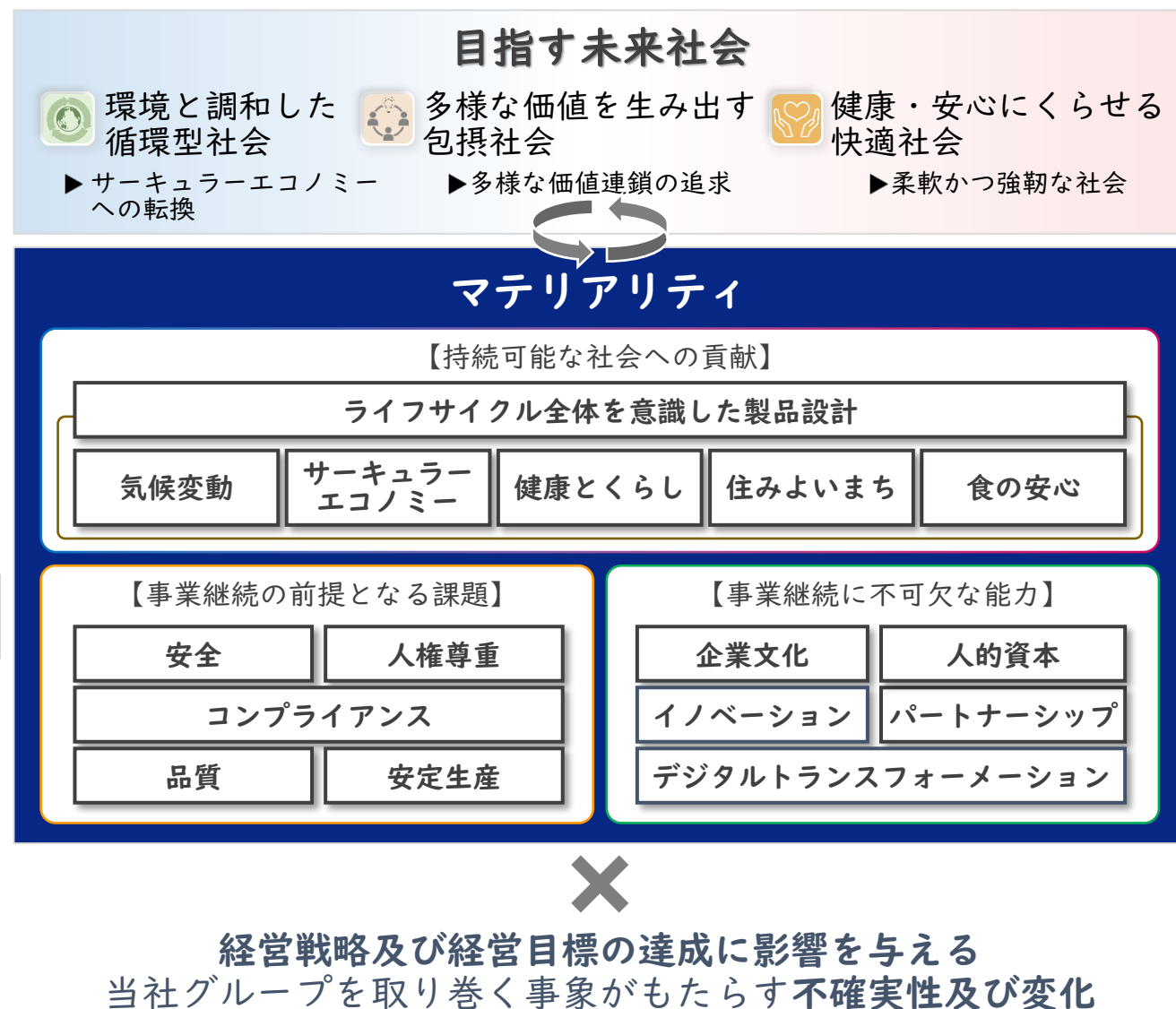
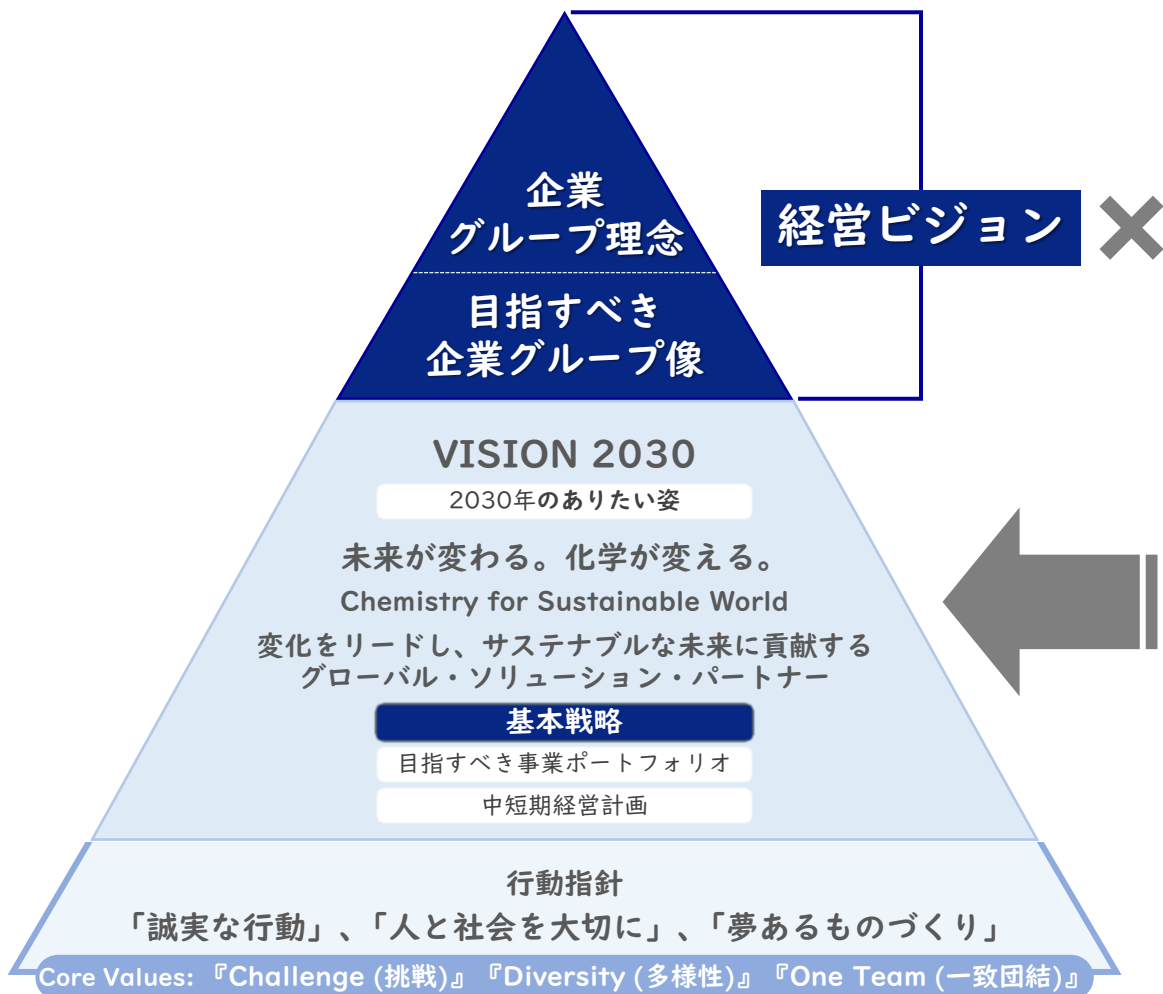
当社グループのESG推進



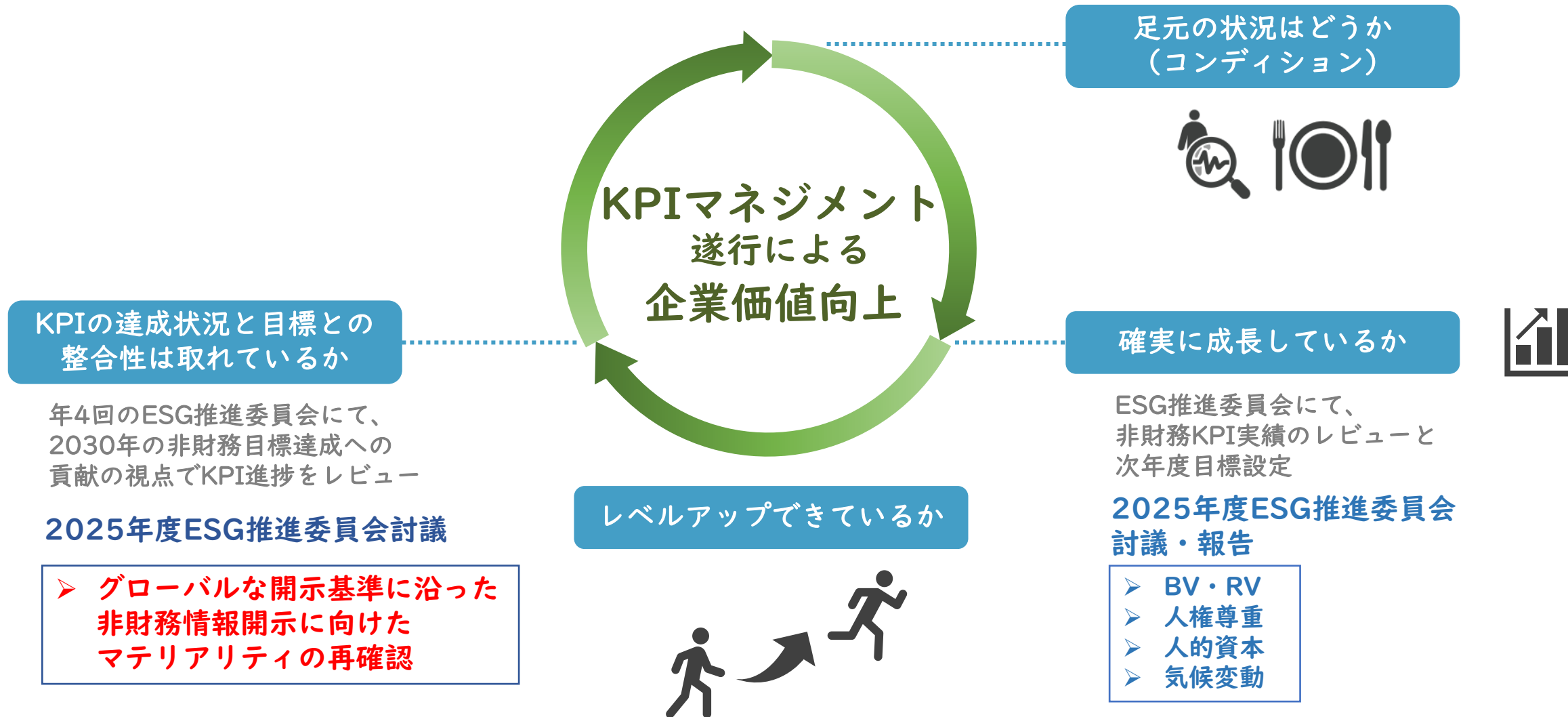
三井化学
グループ

橋本 修
HASHIMOTO Osamu
Mitsui Chemicals, Inc.
President & CEO

ESGを経営に組み込み、VISION2030達成のための取り組みを推進



マテリアリティに紐づくKPIマネジメントの遂行によりVISION 2030目標達成に向けた 持続可能な成長を確実なものとする



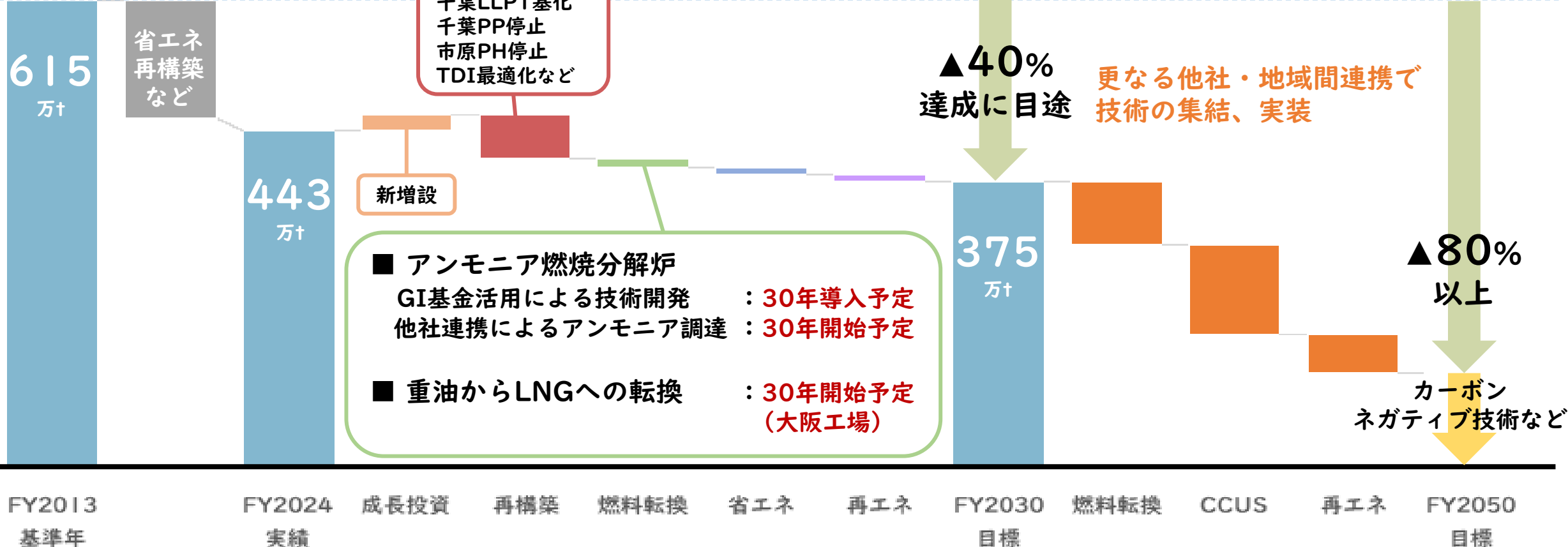
各非財務KPIは2030年度目標に向け着実に進捗

マテリアリティ	非財務KPI	2024年度 実績	2030年度 目標
・ 気候変動 ・ サークュラーエコノミー ・ 健康とくらし・住みよいまち・食の安心 ・ ライフサイクルを意識した製品設計	・ GHG排出量削減率 (Scope I + 2) ・ Blue Value®製品売上収益比率 ・ Rose Value®製品売上収益比率	・ 28% ・ 26% ・ 25%	・ 40% ・ 40% ・ 40%
安全	・ 重大事故・重大労災件数	・ 2件	・ ゼロ※※ ※※VISION 2030期間中
人権尊重	・ 人権リスクへの対応	・ 人権DDの実施	・ 全拠点人権DDシステム構築
コンプライアンス	・ 重大な法令・ルール違反件数	・ ゼロ	・ ゼロ※※
品質	・ PL事故、重大品質インシデント件数	・ ゼロ	・ ゼロ※※
安定生産	・ 高額損失トラブル件数	・ 3件	・ ゼロ
企業文化	・ エンゲージメントスコア	・ 36%	・ 50%
人的資本	・ 戦略重要ポジション後継者候補準備率 ・ 執行役員多様化人数※ ・ 女性管理職比率※ ・ 生活習慣病平均有所見率※ ・ メンタル不調休業強度率※ ※単体	・ 235% ・ 経営者候補多様化率 24.1% ・ 8% ・ 10.32% ・ 0.69	・ 250% ・ ≥10名(内,女性≥3名) ・ 15% ・ ≤8.0% ・ 0.25
デジタルトランスフォーメーション	・ データサイエンティスト数	・ 104名	・ 165名(FY25 Target)
イノベーション	・ 事業部所管テーマ数 ・ 未来技術創生センターにおける開発新領域数	・ 予備的市場開発ステージへのアップ率 11% ・ 研究開発テーマ 5件	・ ≥2倍(2020年度比) ・ ≥3領域
パートナーシップ	・ 持続可能な調達率	・ 重要取引先への調達ガイドライン説明: 19件	・ 80%

FY2030目標達成に向けて計画通りに進行、40%削減達成に目途

FY2050目標カーボンニュートラル達成に向けて、他社・地域連携とCCUS関連技術開発を推進

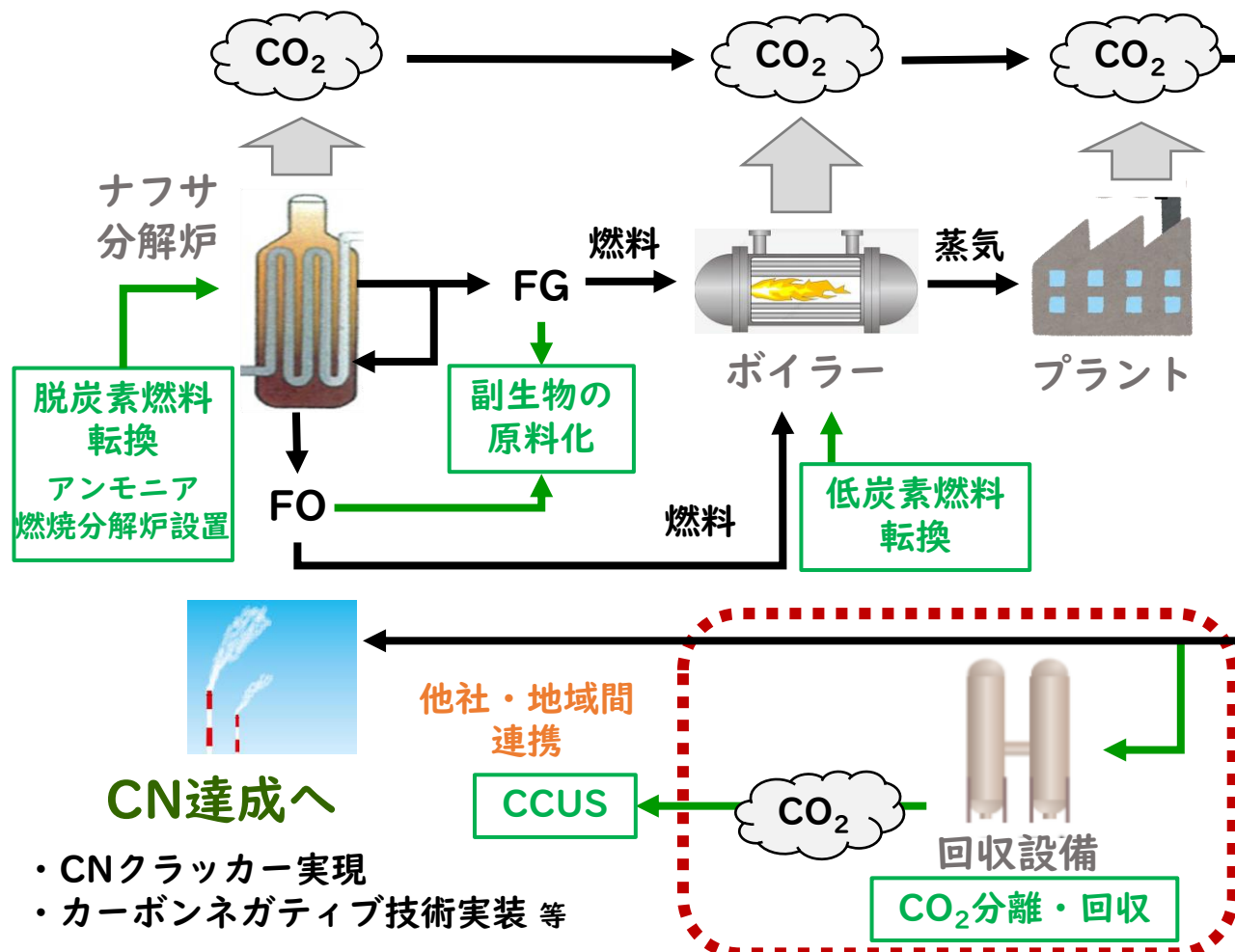
計画通りに進行中



カーボンニュートラル構想実現に向け 三井化学カーボンニュートラル研究センター（MCI-CNRC）において革新技术開発

カーボンニュートラル(CN) 構想

→ 現状
→ CN施策



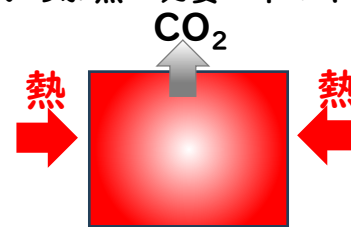
マイクロ波を用いたCO₂回収システムの開発

椿 俊太郎 准教授（特許出願）



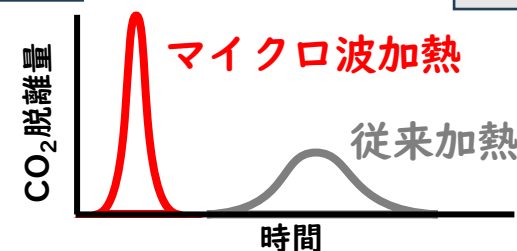
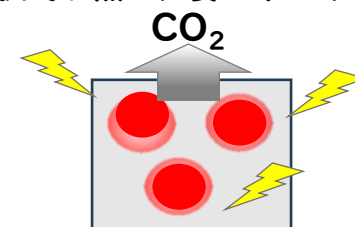
<従来の化学吸収法>

外部から加熱⇒必要エネルギー大



<マイクロ波加熱>

選択的加熱⇒必要エネルギー小



マイクロ波加熱により従来より省エネルギー
且つ短時間でCO₂を脱離させることに成功

課題

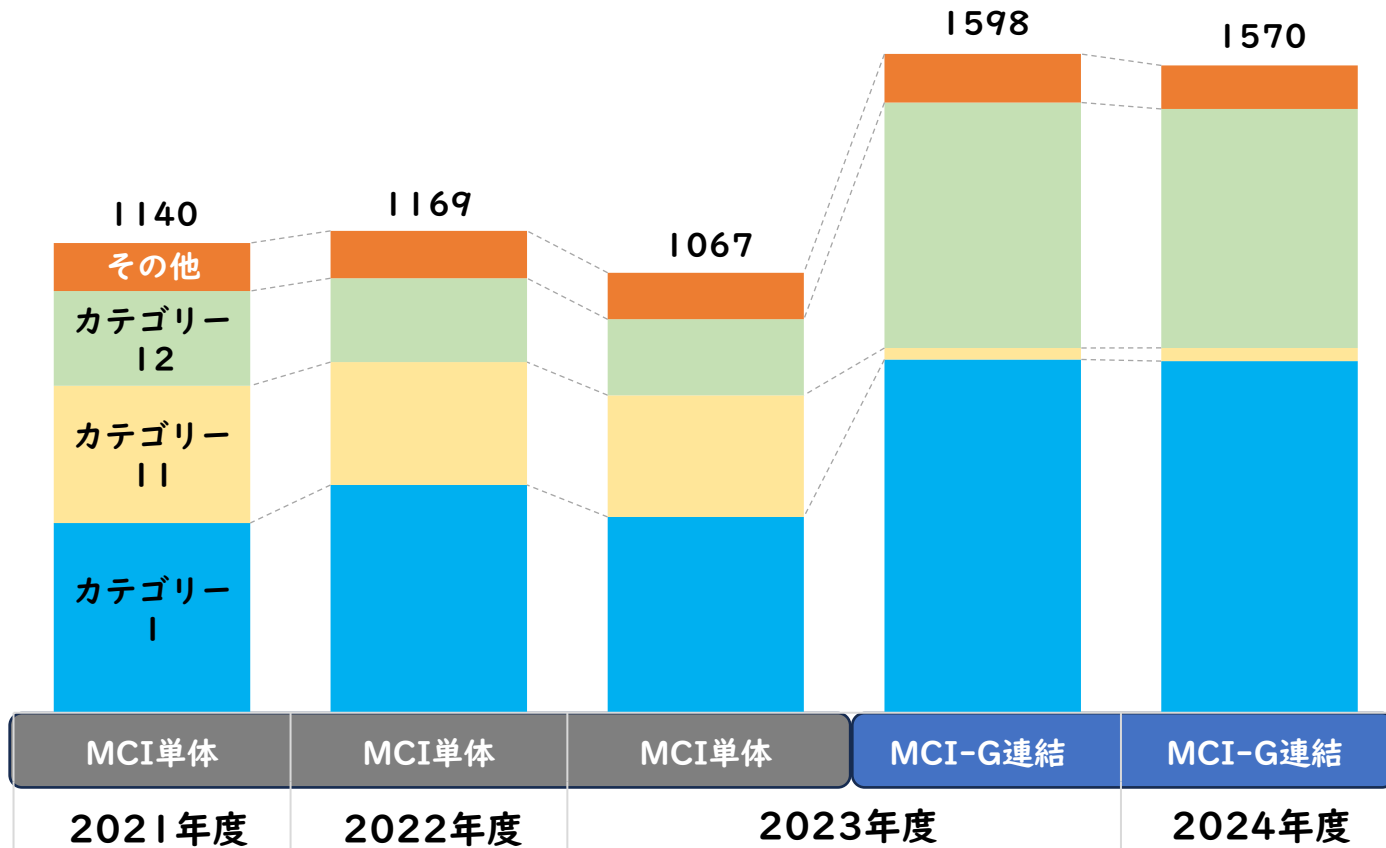
実用化に向けた吸脱着器のスケールアップと性能向上

社会実装化

30年度以降の実機適用想定（市原/大阪工場）

主要連結子会社を含めたScope3の算定・開示を開始

(Scope3排出量/万ton-CO₂)



カテゴリーⅠ：購入した製品
 カテゴリーⅠⅠ*：販売した製品の使用
 カテゴリーⅠⅡ：販売した製品の廃棄

*カテゴリーⅠⅠはこれまで一部のプラスチック素材の間接使用段階排出も推定していたが、正確性と妥当性を考慮して算定手法の見直しを実施し、MCI-G連結算定においては直接使用段階排出のみを算定対象とした

これまで

算定範囲：当社単体
 算定期間：前々年度実績

2025年

算定範囲：当社および**主要連結子会社へ拡大**
売上高ベース 約7割をカバー
 算定期間：前年度（2024年度）実績
 算定手法：精度向上のため一部見直し

2026年

算定範囲：**売上高ベース 9割以上***をカバー
 *ScopeⅠ,Ⅱの範囲と同じ
当社GのScope3全体像を把握可能

新事業・研究開発による事業ポートフォリオ変革



三井化学
グループ

表 利彦
OMOTE Toshihiko
Mitsui Chemicals, Inc.
CTO

成果と利益にこだわった技術経営へ

新たな事業や技術に挑戦し、新規事業創出による将来のパイプラインを確保することは、当社グループの持続的な価値創出のために必要不可欠です。

ただし、不確実性のあるリスクを抱えた新規事業における**資本コスト**は当然高くなります。

したがって、新規事業創出は初期段階から、市場への**高い付加価値**提供と資本コストを上回る高いリターンを得ることを貪欲に目指さなくては意味がないということです。

決して短期的な成果だけでなく、**中長期的かつ持続的な視点での成長**を「ほらね!」と示していくことが当社グループをご支援いただく多くのステークホルダーの方々からの信頼を得る鍵になると考えています。

私たちは常に**プロフェッショナルである自覚**を持って、常に成果と利益にこだわる姿勢を持ち続けることが重要です。

今後も、経営と技術をつなぐ立場として、着実な成果の積み重ねを通じ、**持続的な価値創出**に取り組んでいきます。



常務執行役員 CTO 表 利彦

VISION 2030 足元～

～2030

成長領域



L&HC



モビリティ



ICT

積極投資・回収

メガネレンズ材料
農業化学品
タフマー®
アドマー®
イクロステープ™
アペル®

オーガニック成長

メガネレンズ材料・コート材
農業化学品
自動車材他多用途
モノマテリアル材
半導体関連材
光学関連材

新事業・M&A・提携

既存周辺
メディカル領域
半導体・実装領域
ソリューション

高成長・高収益の
グローバルスペシャリティカンパニーへ

成長加速に資するM&Aを含めた積極的な資源投下、グローバル展開
収益性・資本効率性に課題のある事業の再構築、ポートフォリオ変革



B&GM

再構築加速

PH TDI
PTA/PET

ダウンフロー強化

高機能PP 高機能MDI 触媒
PE/PP

脱炭素

アンモニア燃焼

バイオマス

バイオマスナフサ

リサイクル

ケミカルリサイクル

CCU

カーボンニュートラルセンター

日本の産業を支える強靱な
ベーシック&グリーンマテリアル
カンパニーへ

地域・他社連携の推進加速

グリーンケミカル事業推進室

L&HC

グローバルに周辺技術を獲得

メガネレンズモノマー

世界No1

製販研一体の研究開発型企業で事業運営

トレボン®
エトフェンプロックス国内No1
(ピレスロイド系)

ジノテフラン

国内No2
(ネオニコチノイド系)

テネベナール®

(新規有用性、市場形成中)

茂原に製造・研究を集約

InnoCell®

(25年上市)

モビリティ

グローバルに展開、シンガポールに本社機能

タフマー®
αオレフィンコポリマー

世界No2

日・米・欧・中・アジアに製造・開発拠点

PPコンパウンド

世界No2

グローバル供給体制構築 (日本・米国)

アドマー®
接着性ポリオレフィン

世界No1

日本・中国に製造・技術サービス拠点

三井EPT™
エチレンプロピレンターポリマー

アジアNo3

ICT

グローバルNo1製品

アペル®

世界No1
(スマホ撮像レンズ)

ペリクル

世界No1

製販研一体の半導体製造フィルム事業会社

イクロステープ™

世界No1

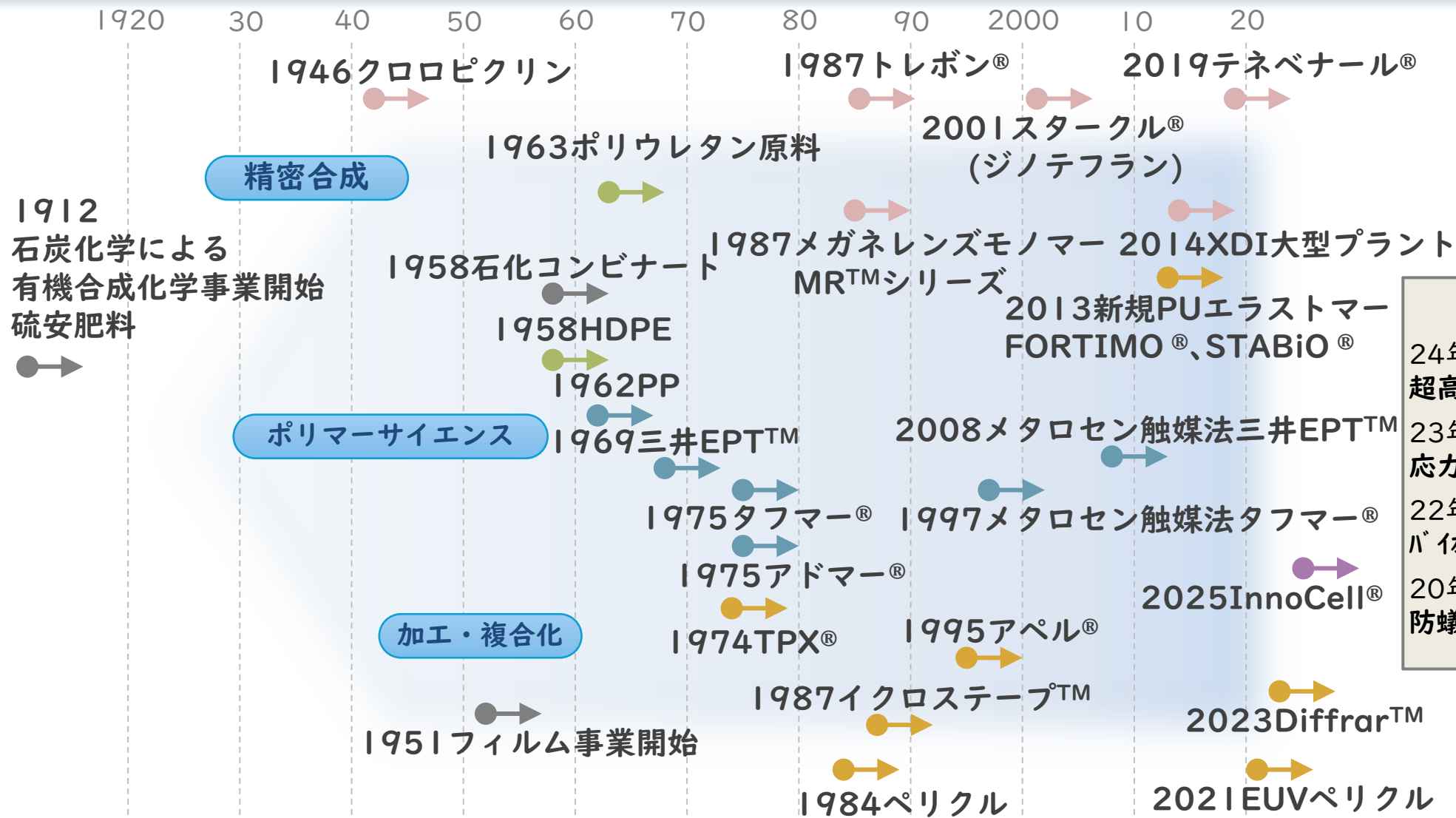
インド・EMEAへ展開

POD※

日本、インド
No1

※) POD : ポリオレフィンディスプレイ

ビジョンケア、農業化学品、特長あるポリマー群の拡大、半導体・実装分野での幅広い製品展開



最近の受賞歴(抜粋、略記)

24年度日本化学会「化学技術賞」
超高分子量ポリエチレン微粒子パウダー

23年度日本化学会「化学技術賞」
応力吸収α-オレフィン共重合体

22年度GSC賞「経済産業大臣賞」
バイオ由来C5イソシアネート・ポリウレタン

20年度木材保存協会「技術奨励賞」
防蟻剤テネベナールの開発

精密合成技術、ポリマーサイエンスといったコア技術を深耕し、加工や複合化技術を融合
新たな価値を創出することで継続的に製品、事業を拡大

14 タフマー®事業～ポリマーサイエンスを活かした製品ポートフォリオ拡大

用途展開

自動車

包材

シューズ

エンブラ

ワイヤー・ケーブル

EV

太陽電池封止材

新規用途



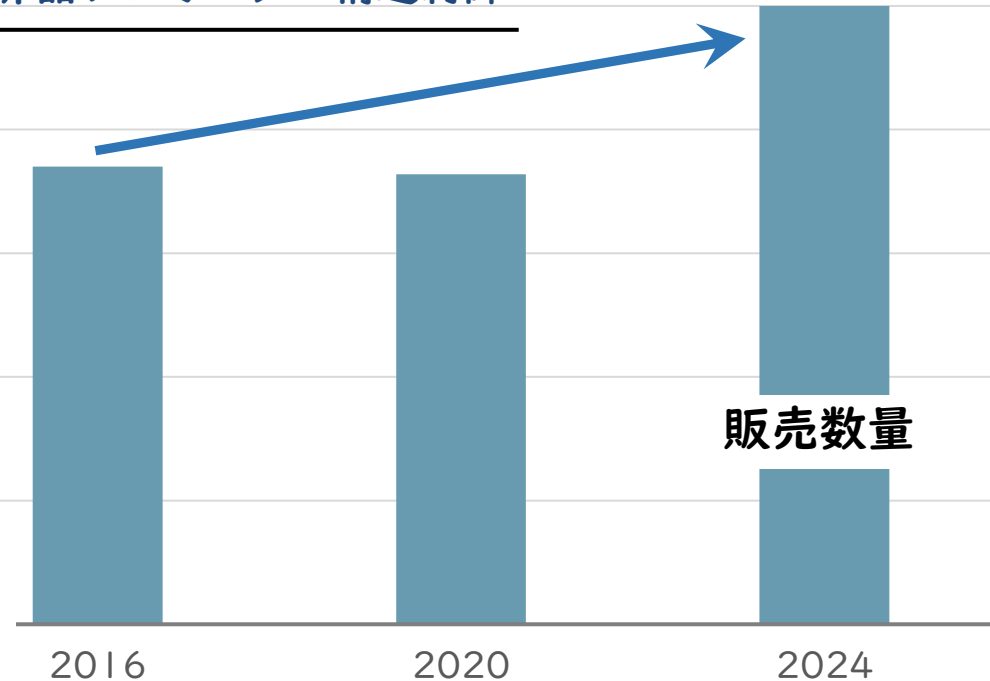
結晶／非晶ナノオーダー構造制御

メタロセン触媒法プロピレン系「タフマー®」

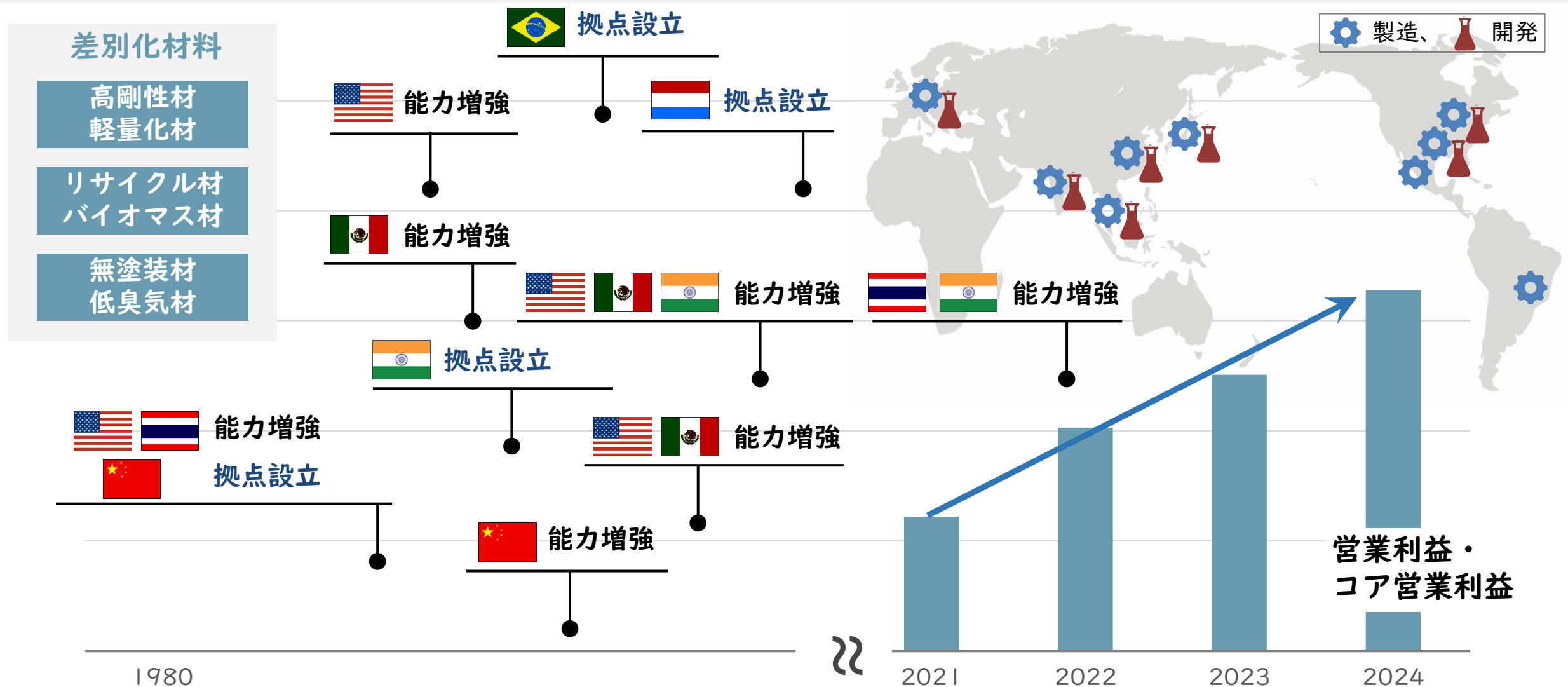
本社機能シンガポール移管

日本初 α -オレフィンコポリマー「タフマー®」実用化

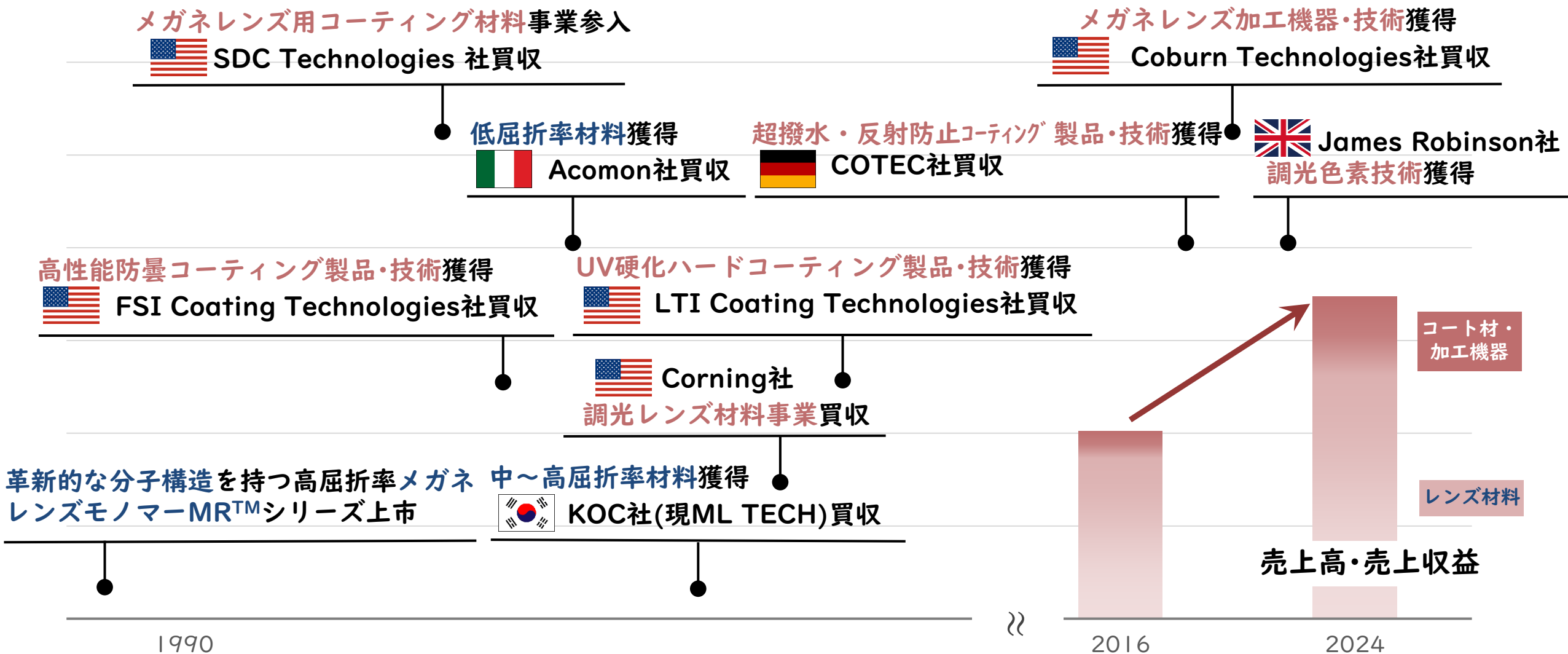
メタロセン触媒法「タフマー®」



成長市場における新たな需要・用途に合致した特長あるポリマー群を創出し続け、グローバルに事業成長



日・米・欧・中・アジアとグローバルに製造・開発拠点を拡充し、
現地ニーズに合わせた差別化材料の開発・投入より事業成長

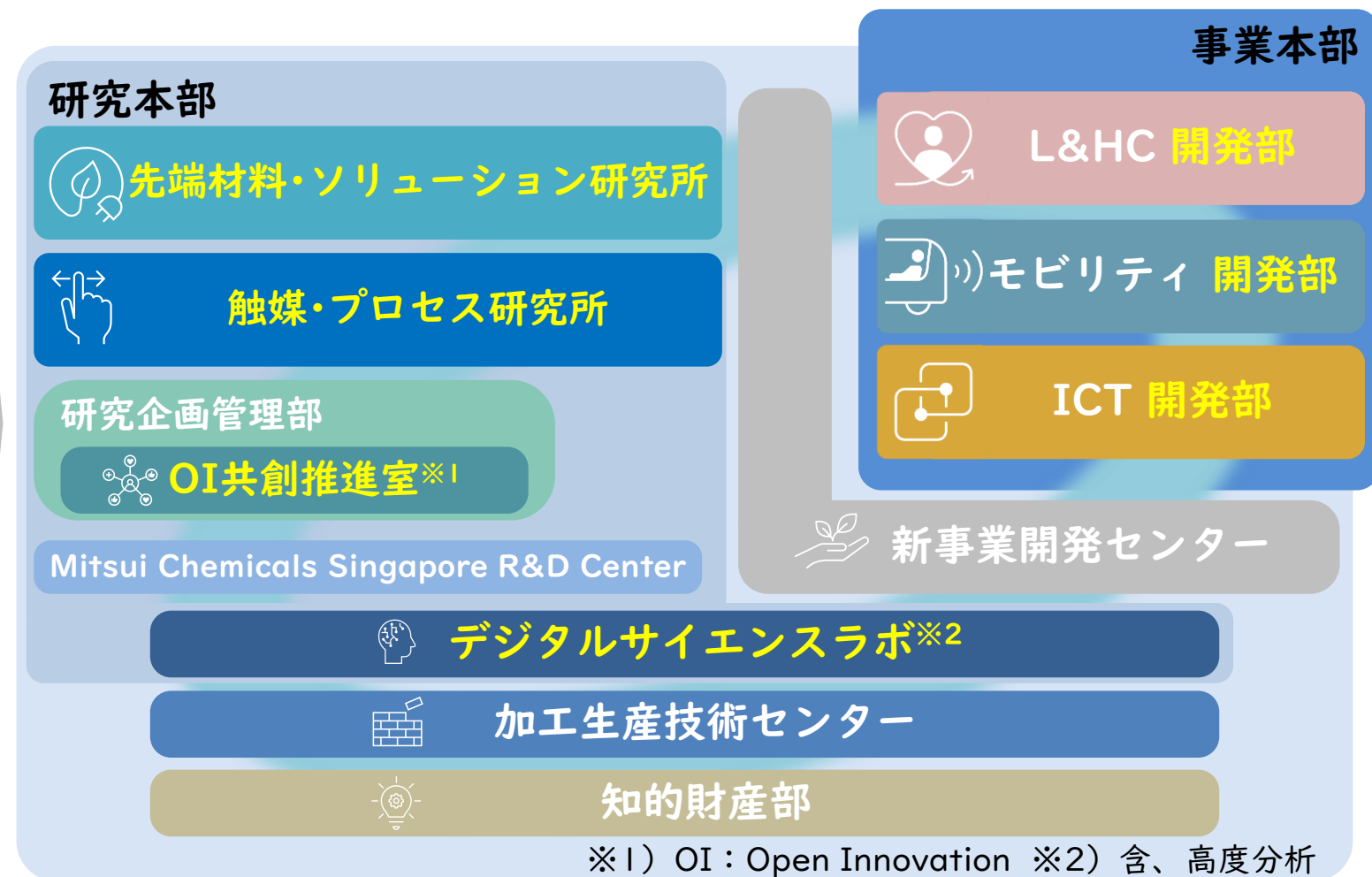


将来のあるべき事業ポートフォリオを想定

精密合成技術を核に、必要となる技術を世界各国から積極的に導入し、事業を拡大

技術領域ごとの研究開発体制

機能と役割を明確化し成果最大化を目指した有機的なイノベーション体制



※1) OI : Open Innovation ※2) 含、高度分析

開発（部）は、事業（部）と一体となることで、製品・ソリューション開発を加速
 研究（所）は、コア技術を強化、Blue Value®・Rose Value®製品・サービスの拡大に資する
 既存事業領域に加え、新たな領域の製品・ソリューションを創出

グループグローバルの技術サポート体制強化

24年12月 **テクニカルソリューションセンター** 拡張

Mitsui Chemicals Europe (Düsseldorf, Germany)

25年2月 **テクニカルセンター** 開設
Mitsui Chemicals India (Haryana, India)

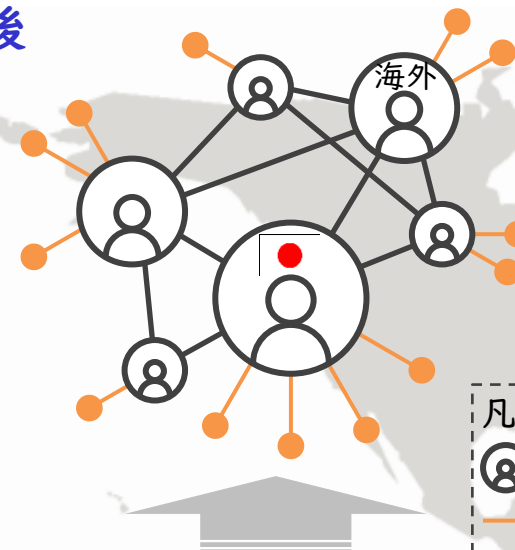
上海

Singapore R&D
(含、TS※)

(アフリカ拠点検討中)

今後のR&Dグローバル拠点・アーキテクチャのあり方

今後



凡例

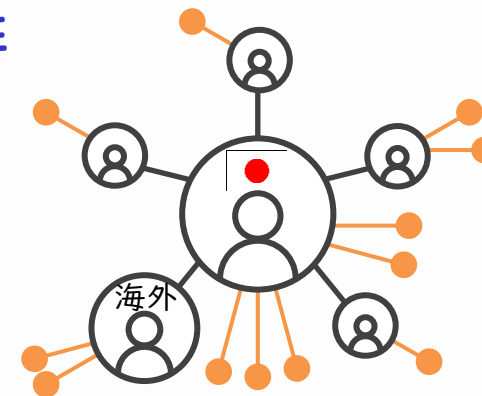


当社R&D、TS※拠点



お客様、外部機関等

現在



※) TS：技術サポート

既存市場に加え、成長市場・新興市場における技術サポート体制を強化
市場と最先端技術の獲得にスピーディーに対応する、グローバルにフラットな分散型へ

2021年11月

- ▶ 九州大学にあるWPI拠点※の一つである、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所「I²CNER」内に、三井化学カーボンニュートラル研究センター「MCI-CNRC」を設置

I²CNER 研究棟

2023年4月

- ▶ 北海道大学にあるWPI拠点※の一つである、化学反応創成研究拠点「ICReDD」内に、三井化学-ICReDD化学反応設計イノベーション部門を設置
- ▶ 京都大学工学研究科に産学共同研究講座三井化学・京大デジタルケミカルラボを設置

2025年1月

- ▶ (公財) ナノ医療イノベーションセンター内にMCI-iCONM共創ラボを設置



2021年

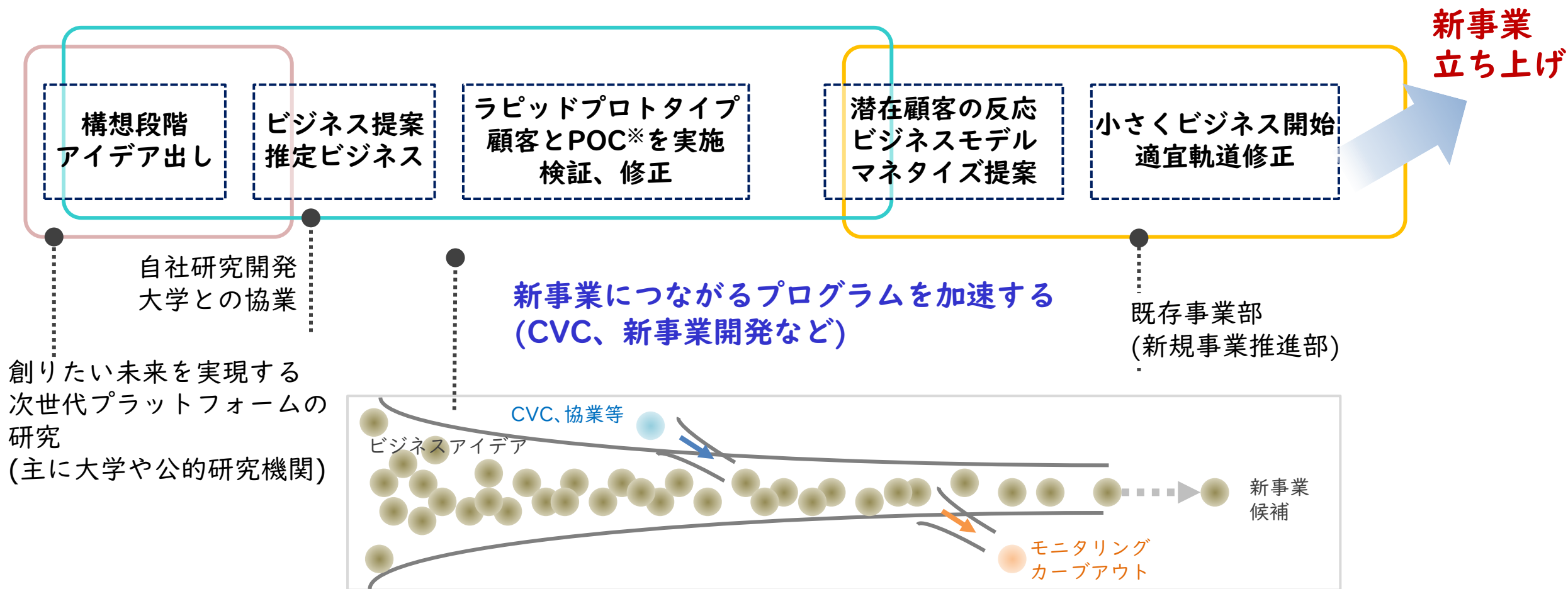
2023年

2025年

※) WPI拠点：世界トップレベルの研究拠点。18拠点が選定されている

第一線の研究者が集まる大学などとの組織的連携により、中長期的な社会課題を解決
今後、連携をグローバルに拡大

0 — 1 —————> 10 —————> 50 —————> 100



※) POC: Proof of concept

自社研究開発部門だけでなく、アカデミアやCVCなども含めたスタートアップと
協業し、新規事業開発を推進

2号ファンド
設立目的等

- さらなるグローバル共創案件の発掘と新製品・新事業創出の加速
- 自社ファンドの米国設立により、これまで以上にグローバルな視点で当社とシナジー性が高いスタートアップに投資し、投資先との共創を通してスピード感を持って新事業を立上

	 321 FORCE™ (22年7月設立)	 321 Catalyst™ (25年5月設立)
ファンド規模	50億円	60百万米ドル
運用期間	10年間	←
対象ステージ・地域	シード期以降のスタートアップ・全世界	←
無限責任組合員 (GP)	グローバル・ブレイン株式会社	321 Catalyst Ventures, Inc. (Mitsui Chemicals America, Inc. 100%)
有限責任組合員 (LP)	当社	321 Indigo Ventures, Inc. (当社100%子会社)

321 FORCE™投資先

 SHOULDER INNOVATIONS

 Zafrens

 FullStem
Make It Easy for Regenerative Medicine

 Rege Nephro

 世界市場
Global Ichiba Corp.

 HOXTON FARMS

 NearMe | ニアミー

 AIO CORE

 Laboro

 RLWRLO

人工肩関節

創薬支援

細胞培養装置

iPS疾患細胞

青果物輸出

脂肪細胞培養

位置情報

光トランシーバー

AIシステム

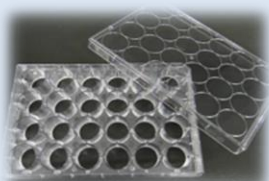
ロボット向けAI

国内外のスタートアップ企業への投資を行い、
新事業・新製品創出の加速を通じて事業ポートフォリオを変革

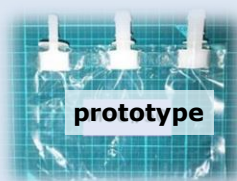
創薬

個別化医療

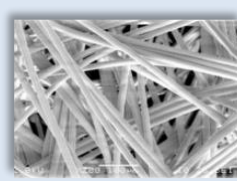
再生医療

 RegeNephro

酸素透過培養プレート

 Zafrens

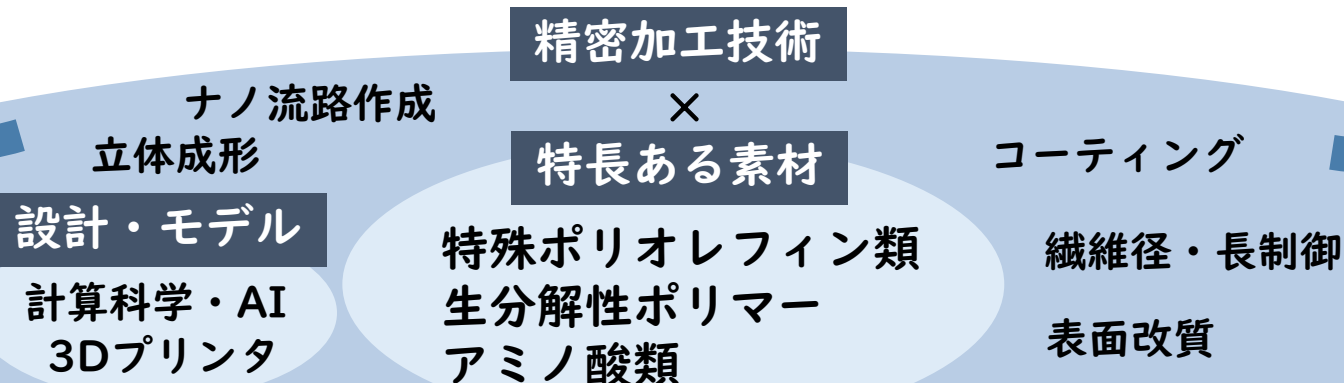
酸素透過バッグ

 FullStem

不織布足場材



生体適合性細胞保存液



当社保有の特長ある素材に精密加工技術などの保有技術を融合させ、
アカデミアやスタートアップと共創することで新たな価値を創造

知財戦略の強化

事業戦略

知財戦略

- 権益確保、特許網構築
- 調査・解析、クリアランス、戦略的活用
- **外部活用を視野に入れた価値の最大化検討**

特許

技術アセットのプラットフォーム化

特許

権利化

技術

研究開発

製造・エンジニアリング

許諾／譲渡

特許

収益化

競争優位の実現

外部活用視点の強化

自社

使用している／
使用可能性あり

使用無し

使用している／
使用可能性ありライセンス
・
売却

他社

使用無し

競争優位実現のための戦略的な知財の活用に加えて、
不要な知財の売却などによりキャッシュ創出をいっそう図る攻める知財戦略へ

デザイン&ソリューションセンター

Creation Palette®
NIIGATA

モビリティをはじめとした設計から
試作・評価までの一気通貫機能を
活用したソリューション提案
デザイン&ソリューションセンター内

Creation Palette®
YAE

共創の入口
八重洲本社内

Creation Palette®
NAGOYA

半導体関連技術を活用した
ソリューション提案
クリエイティブ
インテグレーションラボ®内

クリエイティブインテグレーションラボ®
24年10月開所

Creation Palette®
SODEGAURA

研究開発における共創のハブ機能
VISION HUB®SODEGAURA内

デジタルサイエンスラボ®
24年12月開所



Creation Palette YAE®
24年10月開所



東京八重洲「Creation Palette YAE®」を入口として、
研究開発機能が強化された各拠点において共創テーマを具体化

未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World

変化をリードし

サステナブルな未来に貢献する

グローバル・ソリューション・パートナー

未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World



三井化学

***Challenge Diversity One
Team***

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。